麻酔の安全と質を高めるために看護師に何ができるか

横浜市立大学付属市民総合医療センター　麻酔科
佐藤　仁

麻酔科医を取り巻く環境

- より重度の併存症を有する手術患者の増加
- 手術室外での麻酔需要の増大
- 医療の質、安全に対する関与の増大

麻酔科医を取り巻く環境

- “働き方改革”に代表される労務管理
- 医師の地域的、時間帯別の偏在によるマンパワーの不足

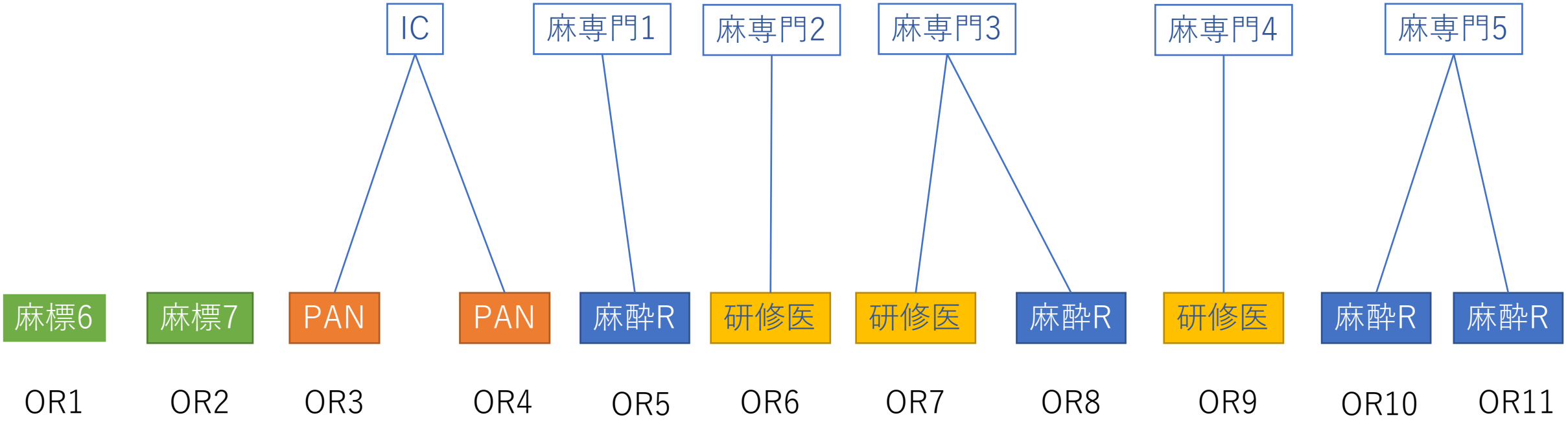
PANの麻酔科医のマンパワーに対する効果

- 諸外国では、麻酔科医１人に対して麻酔担当看護師２人の組み合わせが一般的
- 麻酔科医１人当たりの手術症例数は単純に２倍に。
- 同時には開始できないし、突発的な事象に完全に対応できない可能性

PANの麻酔科医のマンパワーに対する効果

- 症例を慎重に検討し、施行すれば安全に対応可能。
- 他にも研修医や、レジデントとの組み合わせで麻酔を施行している麻酔科医が複数いるとの前提であれば、十分に安全と言える。

PANの麻酔科医のマンパワーに対する効果



Anesthesiology

麻酔の質に対するPANの効果

- 麻酔の知識・技術に習熟した看護師が麻酔業務にチームとして加わることで、ヒューマンエラーの現象が期待される

麻酔業務に関するダブルチェック機能

麻酔方針に関するディスカッションの機会

麻酔の質に対するPANの効果

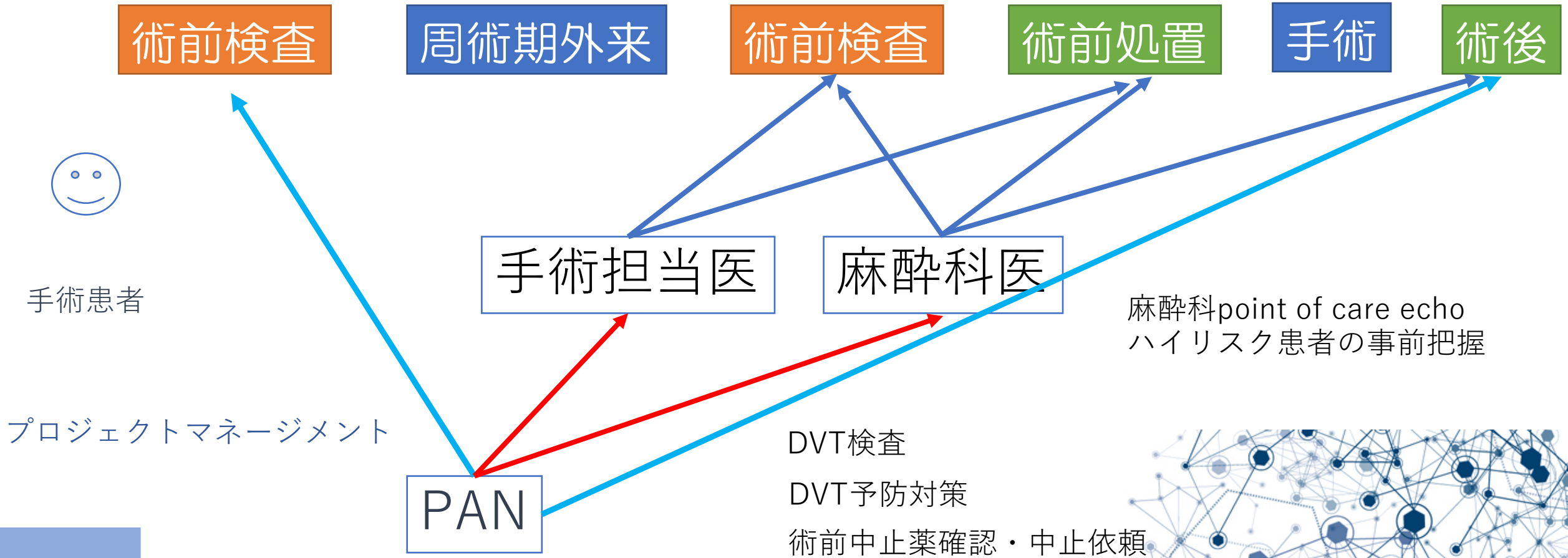
- 重症な合併症を有する患者の麻酔管理や、麻酔中の危機的状況において、診療補助を行うことで麻酔の質の向上が得られる。

大量出血に対する輸血の補助

緊急薬剤の準備

気道確保の介助　など

麻酔の質に対するPANの効果



Anesthesiology

医療安全の観点から観たPANの効果

- 院内での鎮静業務の管理・監督
- 院内患者の急変への対応（ラピッドレスポンスチーム）

麻酔科医のスキルが医療安全の向上に貢献できる領域

Anesthesiology

医療安全の観点から観たPANの効果

- 院内での鎮静業務の管理・監督
- 院内患者の急変への対応（ラピッドレスポンスチーム）
- 術後患者のより緻密なケア（acute pain service）
- 集中治療領域の充実

麻酔科医のマンパワーをシフトできる

Anesthesiology

医療安全の観点から観たPANの効果

- 医師の過重労働を防ぐ。労務環境の改善

  ＆当直業務後は、休日とする。
  ＆年次有給休暇を、可能な限り取得

- 育児、家事と両立できる職場環境の実現

医師が安定して業務を行う環境の実現

医療安全に
チームで貢献する

麻酔科医

外科医

薬剤師

手術室看護師

ME

手術

全ての診療科

理学療法士

PAN

集中治療医

外来看護師

病棟看護師

Anesthesiology